



# 高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行  
NPO法人 高島藤樹会

〒520-1224  
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1  
藤樹書院・良知館内  
電話・FAX 0740(32)4156

## 「知行合一」

高島藤樹会理事 伊庭 郁夫

### 入会の動機



私の高島藤樹会入会の動機は不純である。川越清司氏から「藤樹先生の像がある

る。一万二千円する。もし高島藤樹会に入会すれば一万円になる」という言葉を耳にした。永年大津等高島市外で勤務することが多かった。十数年ぶりで地元高島に帰ってきた。折角なので「藤樹先生」のことを聞かれてもある程度お話ができるくらいは学びたい。藤樹先生の像があれば身近に感じられる。更にお安くなればチャンス到来とばかりに高島藤樹会に足を踏み入れることにした。

### 「立志祭」



初年度から理事会の広報委員会に属することになる。理事は、高島市内の小学三年生を対象に藤樹先生のお話をする事になっていくそうである。(特に広報委員は)

担当は、マキノ西小学校とマキノ南小学校であった。打合せに寄せて頂くと、手作りの資料を作成されており熱意を感じた。

新型コロナウイルスの関係で昨年度は立志祭を実施できていない小学校では、四年生も合同で取り組むことになった。

「立志祭」とは、藤樹先生が「将来立派な聖人になる」と志を立てられたことに由来するそうである。

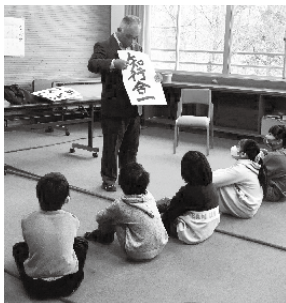
導入では、風呂敷に包んだ前述の「藤樹先生の像」で興味付けをした。

また、立志ということで大野了佐のお話することにした。何とか医者になろうと志を立てるも、物覚えが苦手であった。その了佐のために藤樹先生は分かりやすい解説に力を入れた。周りからは、藤樹先生の体調を心配する声もありながら、二人三脚で志を達成された。更に大野了自身も人づくりをされたそうである。

### 私の好きな言葉の

一つに「知行合一」がある。

小学生にも「知行合一」という言葉と意味を紹介した。学んだことを実際の生活に生かすことが大切である。



## 藤樹人間学塾

田中清行会長のもと毎月安曇川公民館で「藤樹人間学塾」が開催されている。今は「中庸」の解についての学びである。また、会長から多くの資料の紹介や多方面からのお話が聞けるのも魅力である。

その中からで心に残っている「二つの矢」について実例を紹介したい。「第一の矢」は【痛み】である。そして「第二の矢」は【苦しみ】である。足が思うように動かない、目が見えないなどが【痛み】である。これを引きずると幸せに結びつかない。切り離すこと大事である。

私の知り合いに安曇川町にお住いの「松宮喜子」さんがおられる。途中失明され全盲である。

その生き様は、好奇心とチャレンジ精神に満ちている。オリンピック・パラリンピックの聖火リレーでは、雨の中メタセコイヤ並木を走られた。たすきの中継では、大きく腕を回し「パラ水泳」をイメージされた。更に、アーチェリーをしたと話され、実際にサポートを得ながら何度も中された。

「不自由と不幸は別物」ということの実現である。

